
第2次大戦後のアメリカと自由主義圏の経済的繁栄を築くバックボーンとなったブレトンウッズ体制は、40年前、1971年の8月15日にニクソン大統領の政治的決断によって放棄され、それがアメリカの金融・経済力を長期的に決定的に弱める理由になりました。

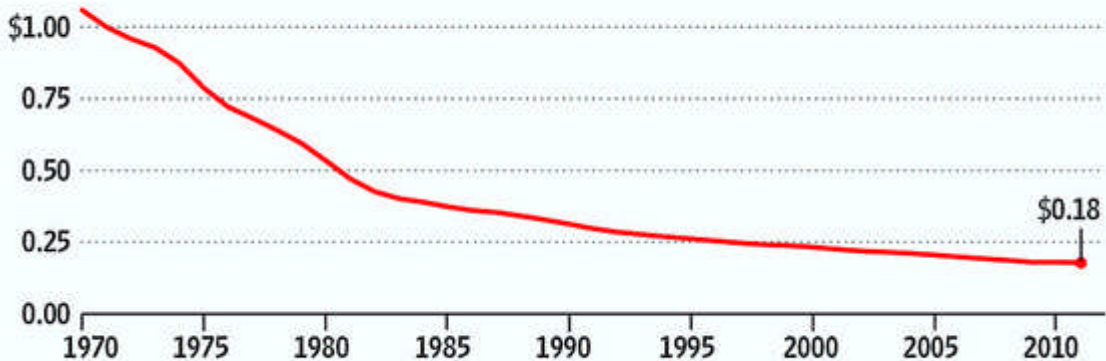
8月15日のウォールストリートジャーナルに載ったルイス・ラーマン (Lewis Lerman) の “ The Nixon Shock Heard ‘ Round the World ” は、その経緯を簡潔に批判、論じてます。要約するとニクソン大統領が8月13日にキャンプ・デーヴィッドにジョン・コナリー財務長官、ジョージ・シュルツ予算管理局長 (後に国務長官)、ポール・ヴォルカー通貨問題担当財務次官、アーサー・バーンズ連銀総裁などを極秘に集めて、経常収支の巨額赤字、経済低成長、インフレなどの問題を一気に解決する経済金融政策を求め、コナリー長官が中心になって編み出した「劇的な」施策が金本位制の放棄とドルの変動相場制への移行、すなわち、ブレトンウッズ体制の放棄だった。この決断は冷静な経済的思考判断によるよりはニクソンの政治的な都合によって行なわれたものであった。この決断がその後10年以上におよぶインフレとスタグフレーションの経済をもたらし、ドルの購買力は今や1971年時点と比較してその18%しかなくなってしまったこと。今日に至るドル暴落の歴史が物語ってます。そのお蔭で、かつては日本の高度成長、今日の中国の大躍進に繋がってます。大統領経済回復諮問委員会委員長ポール・ヴォルカーなど歴史の証人ですが、まだオバマ政権についてます！ 彼もユダヤ人の家庭で育ってます。この辺に問題の本質がある様です。(GREEN SPAN も) 彼らは大企業重視の歴代の政権を好ましく思ってます。ユダヤ人の経営する多くの中小企業 (特に製造業) は壊滅的な犠牲になってます。(この辺は日本も同じ)

ラーマンの記事は下記で。

<http://online.wsj.com/article/SB10001424053111904007304576494073418802358.html?KEYWORDS=Lewis+Lehrman>

Not as Good as Gold

The decline in the purchasing power of a dollar



Note: Dollar deflated by CPI. 1971=\$1.00

Source: Bureau of Labor Statistics